

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

覇権争いする2人はだいたい友達？ (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 浦本 遼平

今週のドル円予想レンジ **106.00 ~ 108.00**

りそなWEEKLY COLUMN

Withコロナ、Afterコロナの世界 (P3)

りそなホールディングス 市場企画部
広兼 千晶

- **新型コロナウイルスは私たちの生活や考え方を大きく変化させた**
- **りそなグループ市場部門の考える、コロナとともに生きる時代に起こりうる変化をご紹介します**

2020/6/22

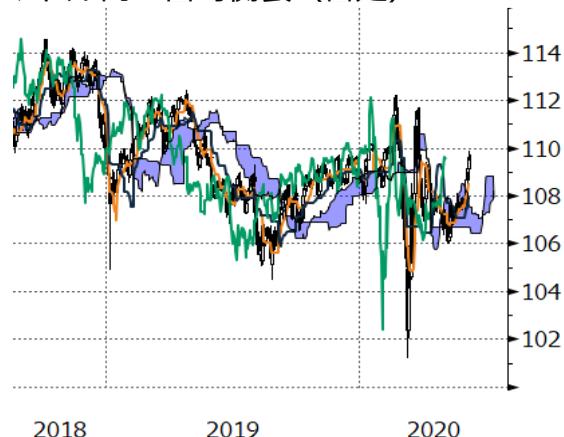
りそな外為レポート

覇権争いする2人はだいたい友達？

今週のドル円予想レンジ **106.00 ~ 108.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週、前米大統領補佐官ボルトン氏による暴露本の内容の一部が報道された。トランプ大統領が習国家主席に対し『大統領選で自分が勝てるよう懇願』『ウイグル族収容施設の正当性』を伝えたとされる（もちろん米国政府は内容を否定、ボルトン氏の刑事訴追を検討中）。選挙を控えるトランプ大統領からすれば目の上のタンコブ。トランプ大統領は中国に対する強硬的な姿勢で支持率を保ってきたが、暴露本の内容が本当であればその逆をいく。両氏は実は仲が良いのか？生まれや育ちは違えど、覇権争いを通じて市場を何度も混乱させてきた「悪そうなやつはだいたい友達」なのか？（ちなみにトランプ大統領と習主席の誕生日は1日違いの先週6月14日と15日。おめでとう！）

足元は経済活動が再開しマクロ環境の改善に兆しが見えてきており、日米株は買い戻されている。そんな中、再選を目論むトランプ大統領が暴露本を否定すべく、中国に対して強硬的な態度を強めては、円高に振れかねない。トランプ大統領の動向には留意したい。

(カスタマーディーラー 浦本遼平)

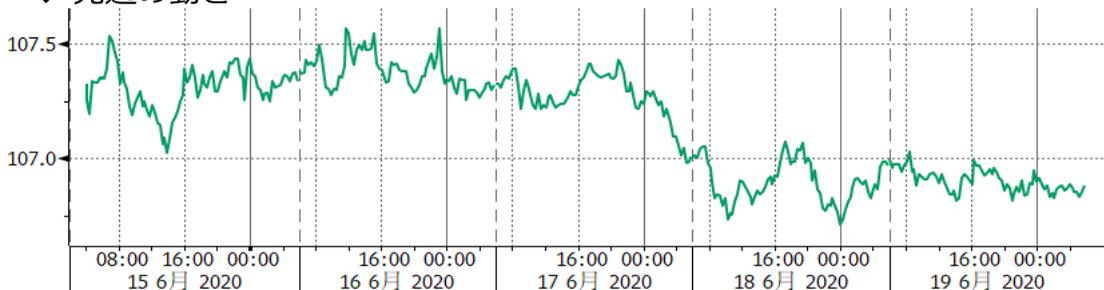
◆今週の日程

22日(月) 米 5月中古住宅販売	24日(水) 独 6月IFO景況感指数
23日(火) 米 2年国債入札	24日(水) 米 5年国債入札
23日(火) 欧 6月PMI	25日(木) 米 7年国債入札
23日(火) 米 5月新築住宅販売件数	25日(木) 米 5月耐久財受注
24日(水) 日 日銀「主な意見」(6/15、16)	26日(金) 米 5月個人所得・消費支出

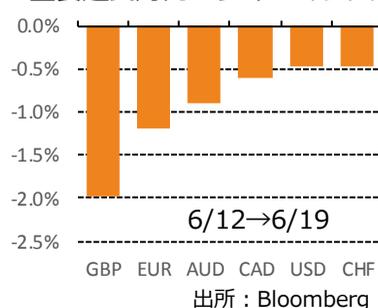
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 6月19日(金) 106.87円 VS 26日(金)

東京							大阪			埼玉						
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	浦本	中里	伊藤	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↓	↓	休	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◆注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/6/22

りそな WEEKLY COLUMN

Withコロナ、Afterコロナの世界

- 新型コロナウイルスは私たちの生活や考え方を大きく変化させた
- りそなグループ市場部門の考える、コロナとともに生きる時代に起こりうる変化をご紹介します

りそなホールディングス 市場企画部
広兼 千晶

コロナとともに 生きる時代

5/25に全国で緊急事態宣言が解除されてからもうすぐ1か月が経とうとしている。徐々に日常生活に戻りつつある一方で、通年のマスク着用、人と人との距離を保つなど、ウイルスがいる前提での新たな生活様式を取り入れることが求められている。東京では一部とはいえ、感染の連鎖は引き続き起きている。また先日厚労省が行った抗体検査でも東京の抗体保有率0.1%と少なく、大多数の人は今後第2波が起きれば、再び感染のリスクをはらむ。特効薬やワクチンの開発にも相応に時間がかかるとされており、当面はこの新型コロナウイルスとともに生きていかざるを得ない。また、このコロナ禍で変わった生活様式等は、ウイルス感染が終息した後の生活にも影響を残しそうだ。

こういった新型コロナウイルスとともに生きる「Withコロナ」、ウイルス終息後の「Afterコロナ」の世界を展望する読み物等はたくさん存在するが、弊社市場部門でもアンケートを行ってみたところ様々な意見が出たので、今回一部であるがご紹介したい。

「With&After コロナ」の世界

りそなグループ市場部門が考える「With&Afterコロナ」の世界

①仕事の選別とベーシックインカム

⑥家でもできるものとそうでないものの二極化

②様々なもののオンライン化

⑦「生」の価値向上

③首都機能分散化、地方創生

⑧郊外の広い家vs職住近接

④シェアリングエコノミーの後退

⑨健康2次被害多発

⑤個室ビジネスの増加

⑩子どもの「人間教育」の重要性

2020/6/22

りそな WEEKLY COLUMN

①仕事の選別とベーシックインカム

テレワークの普及とともに、必要な仕事とそうでない仕事が見えてきた。企業は人員を整理し、より必要な仕事に人的資源を集中する動きが広がると、生産性拡大につながるだろう。仕事の選別や産業構造の転換の過程で余剰人員が生まれると、日本でも恒常的なベーシックインカム導入の議論が進む可能性も。

②様々なもののオンライン化

テレワークを始め、教育、医療、はたまた飲み会までオンライン化が進んでいる。今後は5Gの本格稼働とともに、旅行やスポーツ観戦、ライブなどもVR(バーチャルリアリティ)等を使っでのオンライン化が進むかもしれない。一方、過度にオンラインに頼ってしまうと、通信のダウンや、停電、サイバー攻撃といった新たな問題も生じる。企業等はシステム関連投資を増やさざるを得ないだろう。

③首都機能分散化、地方創生

大都市に人が密集することのリスクが改めて浮き彫りとなった。テレワーク化が進めば企業は都心にオフィスを構える必要もなく、地方への移転が進む可能性も。また、今回各都道府県知事のリーダーシップも注目された。当面海外への旅行も控えられる中、国内旅行需要の高まりで地方の魅力が再確認される可能性も。

④シェアリングエコノミーの後退

ミニマリズムや「所有しない」機運の高まりから脚光を浴びていたシェアリングエコノミーだが、「誰が触ったかわからない」ものをこのWithコロナ時代に使うのはためられる。レンタカー等、都度業者のメンテナンスが加わるものはまだ安心感があるが、カーシェアなどは利用者が減少する可能性もあろう。

⑤個室ビジネスの増加

家ではできないカラオケや、飲食店等も1人ずつ仕切ったり、お1人様専用の個室ビジネスが増えるかもしれない。また、テレワークも家だと集中できないという人用に、Wi-fiやテレビ会議システムも完備され、防音対策もされたテレワーク専用カフェのようなものが人気となるかも。ただ、使用後の徹底的な消毒は必須となる。また、個室でなくとも、不特定多数ではないという意味では、「一見さんお断り」や「会員制」が安心感となるのでは。

⑥家でもできるものとそうでないものの使い分け

自宅でも相応の楽しみ方ができることがわかり、今後は家でもできるものと、そうではないものとの使い分けが進む可能性がある。例えば、映画などは、見るだけなら家でも各種動画配信サービス等を利用すれば良い。ただ、映画館でしか味わえない迫力や魅力もあるため、映画館そのものはなくなるとも、見るだけでいいという客は減る可能性。

2020/6/22

りそな WEEKLY COLUMN

⑦「生」の価値向上

大人数で集まることが難しい中、テーマパークやイベント等は今後も入場制限が予想される。「生」で体験できることが少人数制となり、価値が向上、プレミア化する。また、サービスに適切な対価を払おうという機運が高まり、サービス価格の適正化が起こる。

⑧郊外の広い家vs職住近接

家で過ごす時間が長くなり、またテレワークで出勤することが減ると、郊外に広い家を持ちたいという人も増えるだろう。マンション暮らしの筆者も休校・休園中の子どもとテレワークをしてみたが、せめて庭があれば子どもたちを外で遊ばせてあげられるのにと痛感した。一方で、感染リスクの高い満員電車を避けるために、職住近接がより進む可能性もある。住居も二極化が進むのかもしれない。

⑨健康2次被害多発

頻繁に手を洗うことや消毒アルコールを使うことも増え、またマスクのあたる部分がかぶれるなど、皮膚のトラブルが増えているそう。また、「コロナ太り」と言われるように、外出自粛で運動不足気味となり、肥満が社会的問題になる可能性も。また身体面だけではなく、精神面でもうつ状態になったり人間関係の希薄化に伴うストレスなども生じやすい。コロナ以外で健康を崩さぬよう注意したい。

⑩子どもの「人間教育」の重要性

教育面には大きな影響を及ぼす。オンライン授業等で学習面は何とかキャッチアップすることはできるかもしれない。一方、学校は学習指導のみならず、集団生活やクラスメート等とのやり取りを通じて人としても成長する場であり、家庭だけでは難しい。そういった「人間教育」もオンラインで行うのか、はたまた親向けの「人間教育方法」ビジネスが今後出てくるのかもしれない。

